**◇2016年度実施の海外教育旅行の実態とまとめ（中・高）＜抜粋＞◇**

この調査は、2016（平成28）年度に実施された中学校･高等学校の教育旅行に関するものである。

　なお、調査は全国の国立･公立･私立等の中学校･高等学校を対象とし、下表の調査校を抽出し回答を依頼した。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 設置者名 | 国立 | 公立 | 私立等 | 合計 |
| 全国校数 | 90 | 13,329 | 2,145 | 15,564 |
| 抽出校数 | 90 | 3,730 | 2,046 | 5,866 |
| 回答校数 | 15 | 821 | 443 | 1,279 |
| 回答率％ | 16.7％ | 22.0％ | 21.7％ | 21.8％ |

* 回答率は、抽出校数に対する回答校数の割合

　調査項目は次の通りである。

　（1）実施学年（2）出発月（3）宿泊日数（4）行事種別（5）訪問国名・地域名

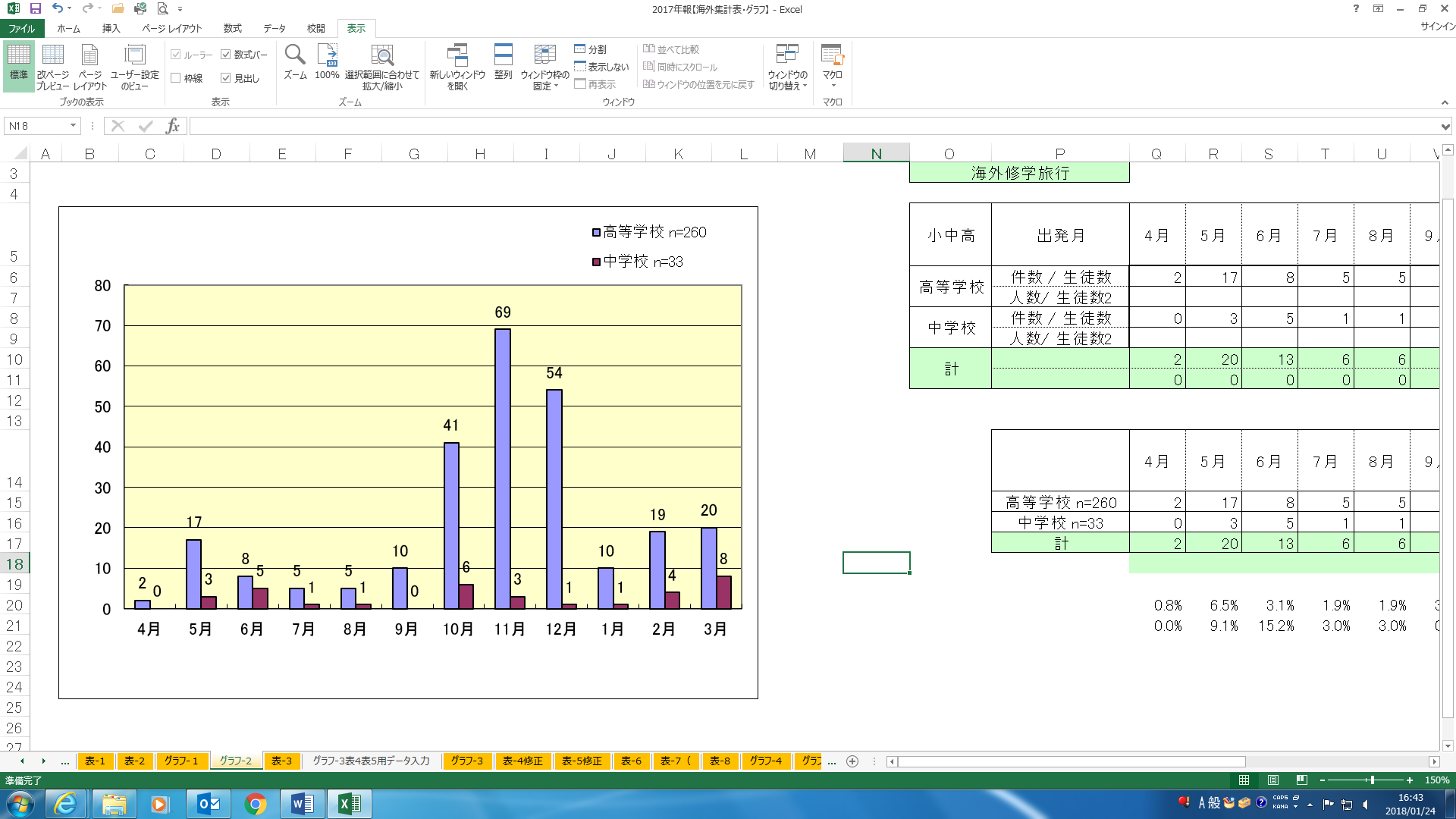
（6）宿泊都市（7）訪問都市（8）～（10）参加生徒数・引率教員数・合計人数

（11）参加形態（12）生徒一人当たり旅行費用（13）学校間交流の具体的内容

（14）海外教育旅行実施に当たっての課題や問題点

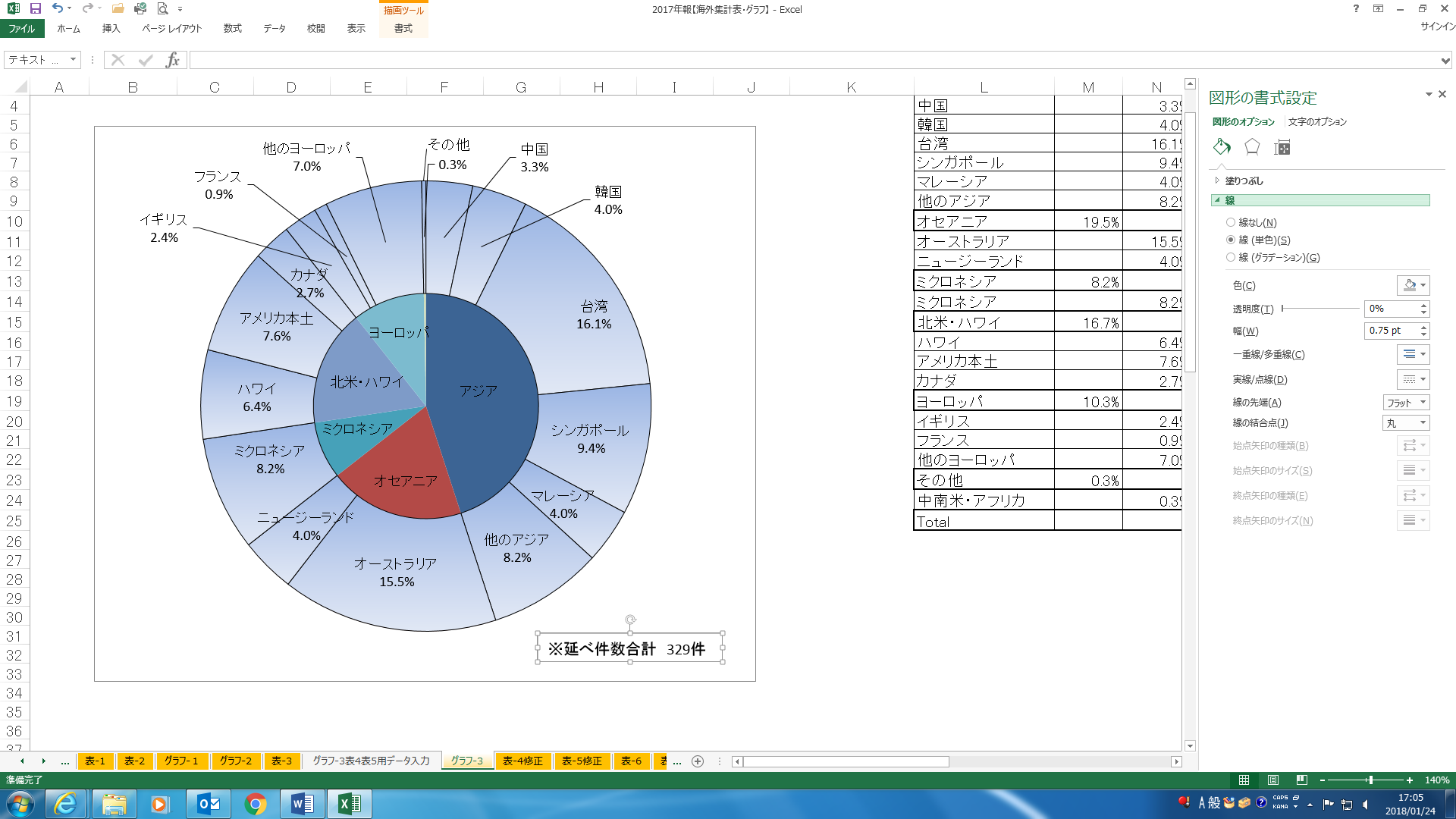
　ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細については｢教育旅行年報データブック2017｣をご覧ください。

１．海外修学旅行の実施月(件数)

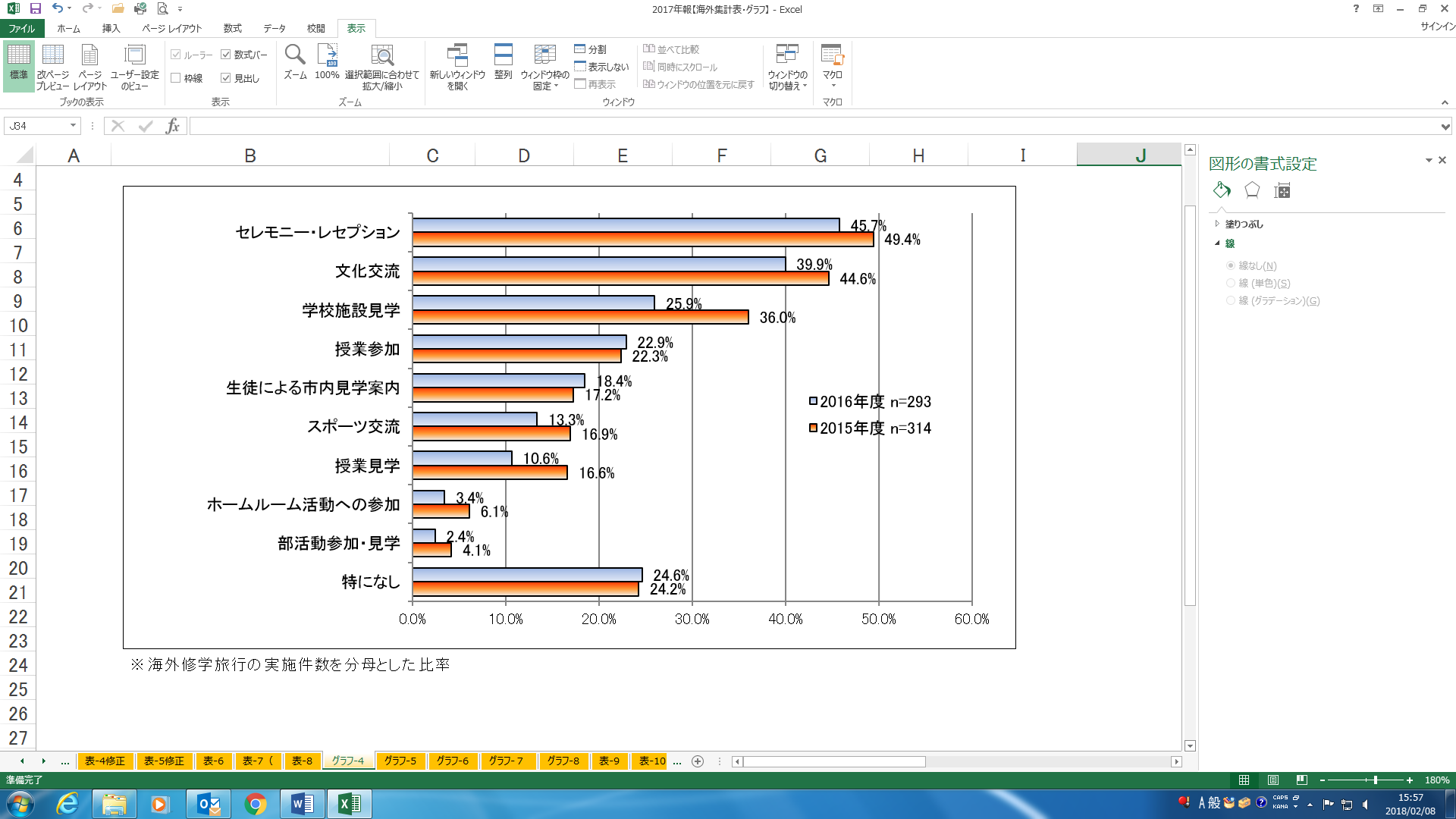


中学校は実施のほとんどが私立校ということもあり、時期が分散している。高等学校では件数ベースの63．1％が10月～12月に実施しており、前年の61.1%より若干上昇し、この時期への集中は強まる傾向。特に公立校にこの傾向が強い。2・3月実施も多く、2学期（全件数の66.9％）、3学期（同18.9%）での実施が大勢である。

２．海外修学旅行の訪問国･地域別割合（件数比）

べトナムを中心とした｢その他アジア｣の増加等があったものの、もともと件数が多い台湾･シンガポール等の減少から、アジア系が前年の54.6%から45.0％と減少した。その他では、オセアニア系が前年の17.2％から19.5％と増加、アメリカ本土･ハワイも増加。「ほか（英･仏以外）のヨーロッパ」も前年の4.4％から7.0％と増加した。「他のヨーロッパ」の増加は、私学で独自性のある行き先を模索している影響もあると思われる。

３．海外修学旅行の学校間交流内容（複数回答）



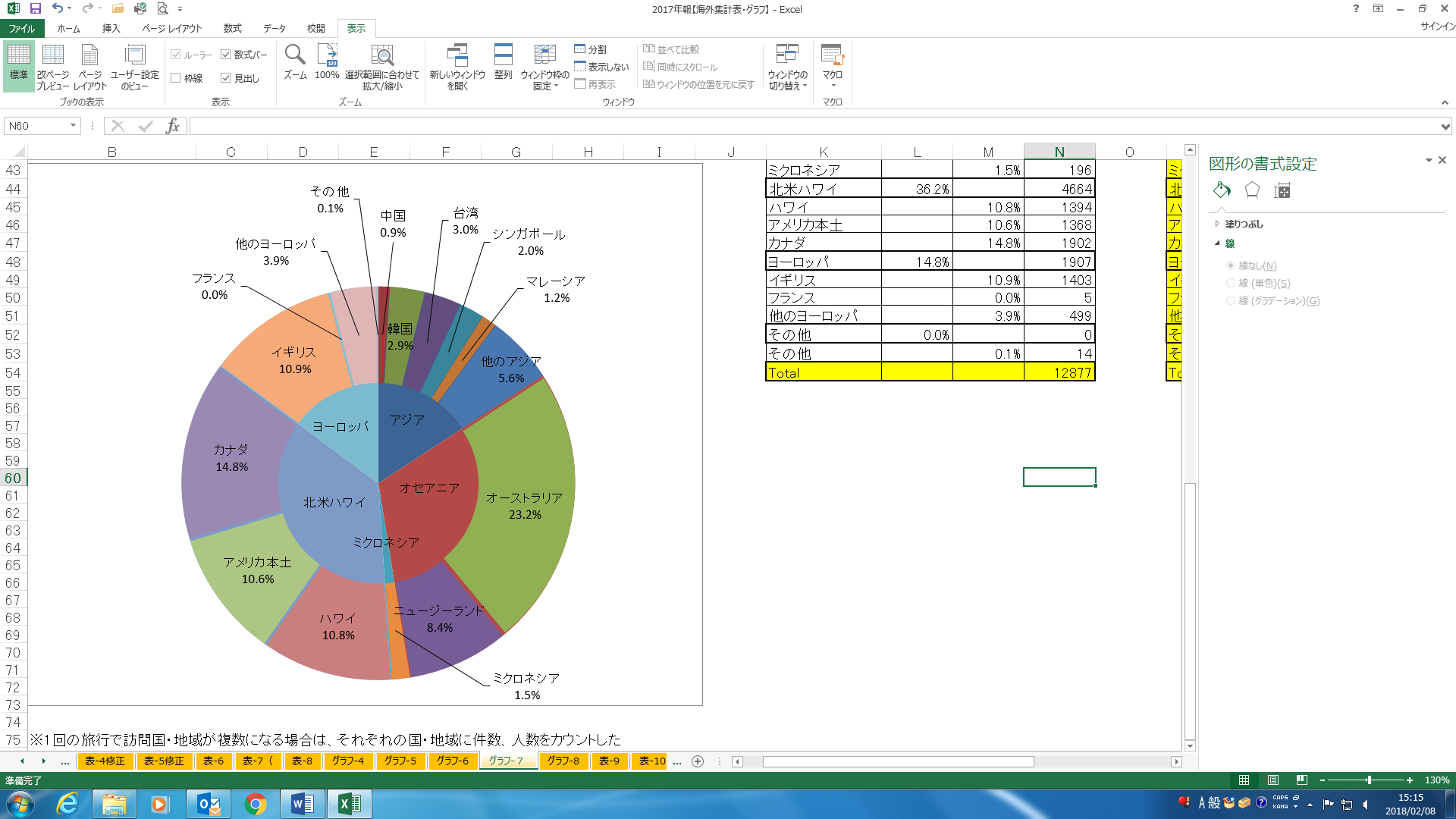
海外旅行実施件数を分母とした比率で、前年と比べた場合に全体として大きな変化はないといえる。「セレモニー・レセプション」（45.7％）や「文化交流」（39.9％）を中心活動として、多くの学校が学校交流を目指しており、実施経験を積む中で、より充実した内容への模索が行われているといえる。

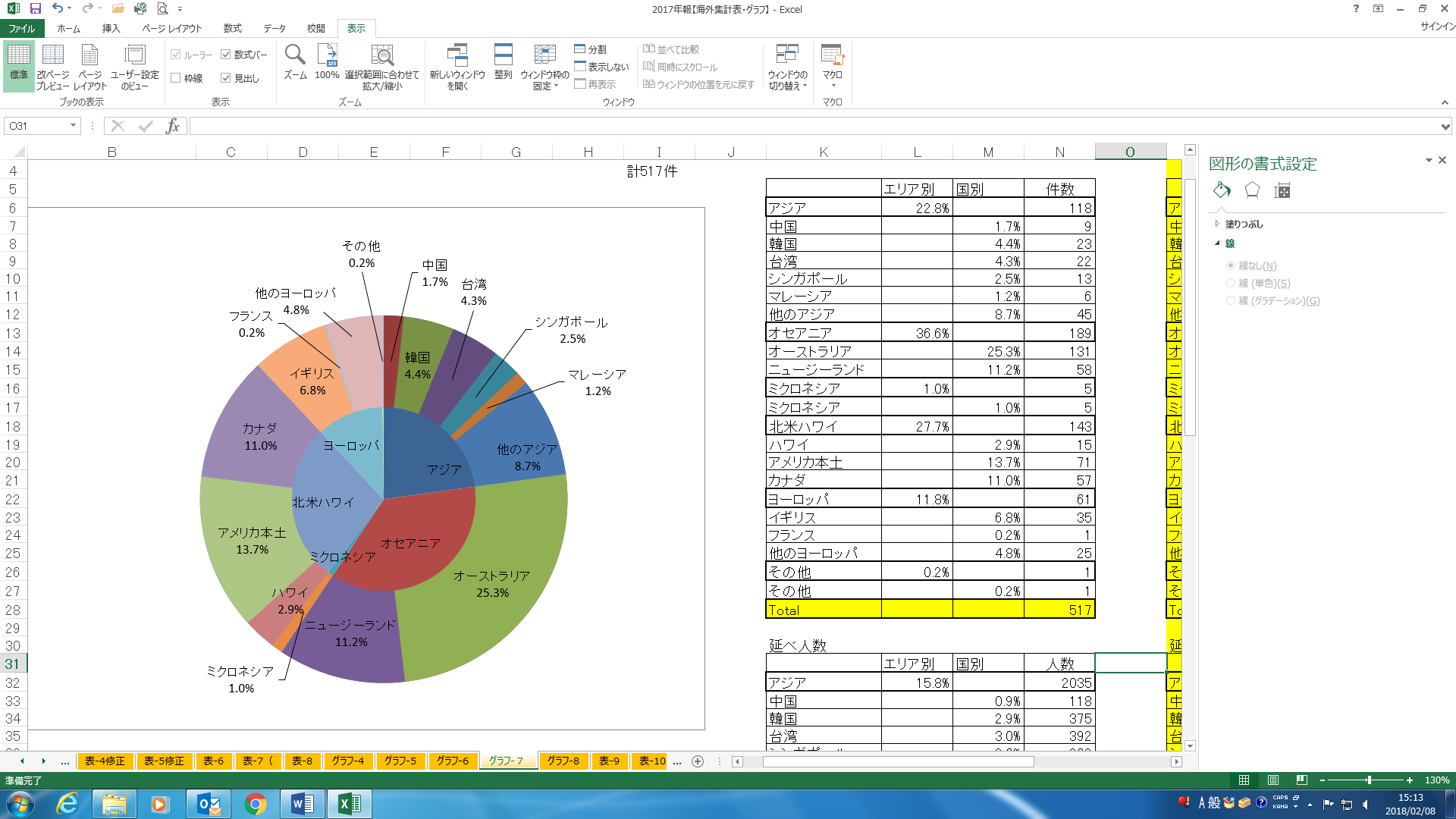
４．修学旅行以外の海外教育旅行について

修学旅行以外の海外教育旅行の　　　　　　　　　　同左（延べ人数比）

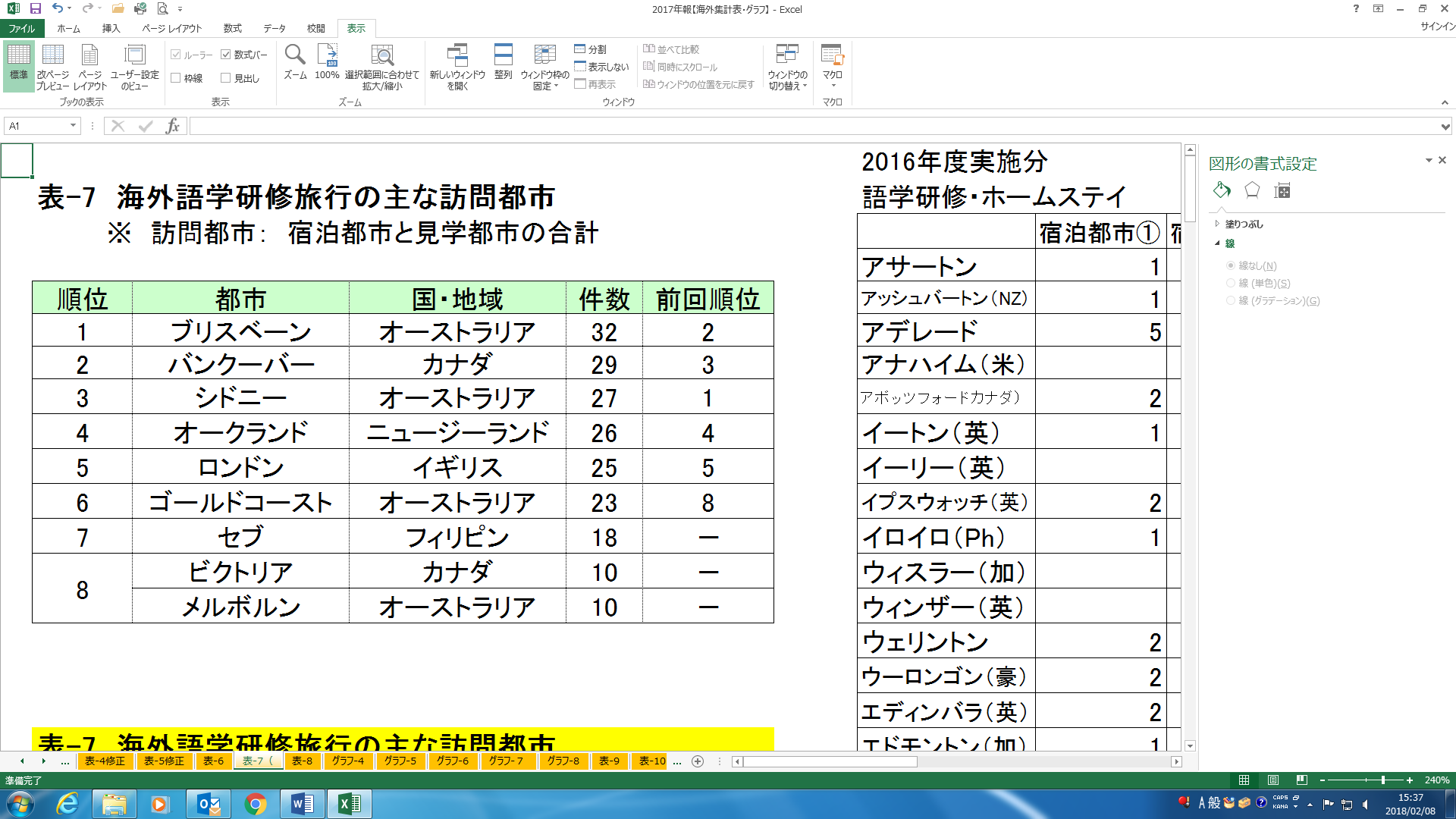
訪問国･地域別割合（延べ件数比）　（計517件）　　（計12,877人）

※1回の旅行で訪問国･地域が複数になる場合は、それぞれに件数、人数をカウントした。





海外語学研修旅行の主な訪問都市　　　※訪問都市：宿泊都市と見学都市の合計



修学旅行以外の海外教育旅行計495件中282件（57.0％）が語学研修の他、その他の区分の旅行も、英語学習を兼ねる場合が多いため、英語圏志向が強い。延べ人数比では、オーストラリアが23.2％と最も多く、カナダ（14.8%）、イギリス（10.9％）、ハワイ（10.8％）、アメリカ本土（10.6%）、と続く。「他のアジア」は件数（前年7.1％→当年8.7％）人数（3.3％→5.6％）とも伸びているが、件数45件中25件がフィリピンで、内20件が語学研修である。

語学研修旅行における訪問都市では、顔ぶれは大きく変わらないながらも、上記と関連し、セブが7位（18件）に新たに登場したのが注目される。